

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 7 区分

【発行日】平成 27 年 7 月 30 日 (2015.7.30)

【公開番号】特開 2013-1575 (P2013-1575A)

【公開日】平成 25 年 1 月 7 日 (2013.1.7)

【年通号数】公開・登録公報 2013-001

【出願番号】特願 2012-138405 (P2012-138405)

【国際特許分類】

B 6 5 G 53/58 (2006.01)

B 6 5 G 53/52 (2006.01)

B 6 5 G 53/16 (2006.01)

【F I】

B 6 5 G 53/58

B 6 5 G 53/52

B 6 5 G 53/16

【手続補正書】

【提出日】平成 27 年 6 月 12 日 (2015.6.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

空気搬送システムに使用される流れパターン移行管であって、
軸方向で内径が漸次的に増大する第 1 の膨張管セクションと、
前記第 1 のセクションの最大内径端部から該第 1 のセクションに続いて、前記第 1 のセクションから離れて軸方向で内径が漸次的に減少する第 2 の収縮管セクションと、
前記第 2 のセクションの最小内径端部から該第 2 のセクションに続いて、前記第 1 のセクションの最小内径よりも小さい実質的に同一内径を有する第 3 の管セクションと、
を備え、前記第 1 のセクションの軸方向長さは、前記第 2 のセクションの前記軸方向長さの約 3 ～ 約 5 倍である、流れパターン移行管。

【請求項 2】

空気搬送システムに使用される流れパターン移行管であって、
軸方向で内径が漸次的に増大する第 1 の膨張管セクションと、
前記第 1 のセクションの最大内径端部から該第 1 のセクションに続いて、前記第 1 のセクションから離れて軸方向で内径が漸次的に減少する第 2 の収縮管セクションと、
前記第 2 のセクションの最小内径端部から該第 2 のセクションに続いて、前記第 1 のセクションの最小内径よりも小さい実質的に同一内径を有する第 3 の管セクションと、
を備え、
前記流れパターン移行管が、キャリアガスを介して供給原材料を搬送するために前記空気搬送システムに使用されるときに、前記流れパターン移行管は、前記第 1 のセクションの最大内径端部においてソルーション速度よりも低いキャリアガス速度と、前記第 2 のセクションの最小内径端部においてピックアップ速度よりも高いキャリアガス速度と、を可能にするよう構成される、流れパターン移行管。

【請求項 3】

前記第 2 のセクションから離れた前記第 3 のセクションの端部から該第 3 のセクションに続いて、前記第 3 のセクションから離れて軸方向で内径が漸次的に増大する第 4 の膨張

管セクションを更に備える、請求項 1 または 2 に記載の流れパターン移行管。

【請求項 4】

前記第 1 のセクションの最小内径は、前記第 4 のセクションの最大内径と実質的に同じである、請求項 3 に記載の流れパターン移行管。

【請求項 5】

前記流れパターン移行管がキャリアガスを介して供給原材料を搬送するため空気搬送システムに使用されるときに、前記流れパターン移行管は、前記第 1 のセクションの最大内径端部においてソルテーション速度よりも低いキャリアガス速度を可能にするよう構成される、請求項 1 乃至 4 のいずれかに に記載の流れパターン移行管。

【請求項 6】

前記流れパターン移行管がキャリアガスを介して供給原材料を搬送するため空気搬送システムに使用されるときに、前記流れパターン移行管は、前記第 2 のセクションの最小内径端部においてピックアップ速度よりも高いキャリアガス速度を可能にするよう構成される、請求項 1 乃至 5 のいずれかに に記載の流れパターン移行管。

【請求項 7】

前記流れパターン移行管は、該流れパターン移行管を流れる供給原材料の流量ゆらぎを 10 % 未満に低減できるように構成される、請求項 1 乃至 6 のいずれかに に記載の流れパターン移行管。

【請求項 8】

請求項 1 乃至 7 のいずれかに に記載の少なくとも 1 つの前記流れパターン移行管を備えた空気搬送システム。